



宇宙輸送小委員会 提出資料(2026年7月1日) 大分県

大分空港の宇宙港としての活用に向けた主な取組

Sierra Space社との取組（宇宙往還機の着陸）

- ✓ 2022年2月、宇宙往還機Dream Chaser®の着陸拠点として、大分空港を活用するための検討を行うパートナーシップを、兼松株式会社とともに締結。同年末に日本航空株式会社が参画。さらに、2024年7月に、株式会社三菱UFJ銀行、東京海上日動火災保険株式会社の参画を公表。
- ✓ Dream Chaser初号機は米国での開発を完了し、2026年第4四半期のアメリカ国内での打上げ・着陸に向け所定の試験を継続中。なお、初ミッションは、NASAとの商業補給サービスの一環として自由航行（Free-Flight）を予定。
- ✓ 上記国内企業・大分県は、Dream Chaserの大分空港への着陸に向けた調査・検討を実施。



実際の滑走路を用いた走行試験等を行う Dream Chaser
(2025年11月頃)

その他の企業との連携

- ✓ 欧米を含む国内外の複数の宇宙開発企業から大分空港の水平型宇宙港としての活用に関心・期待が寄せられている。
- ✓ 大分空港の航空機以外のツールにとっての拠点の可能性は、宇宙分野だけでなく、空飛ぶクルマ等の事業者からも注目されている。

日本（九州）と宇宙（地球低軌道）を繋ぐ経済圏の構築

SIERRA
SPACE



KANEMATSU



JAPAN AIRLINES



MUFG



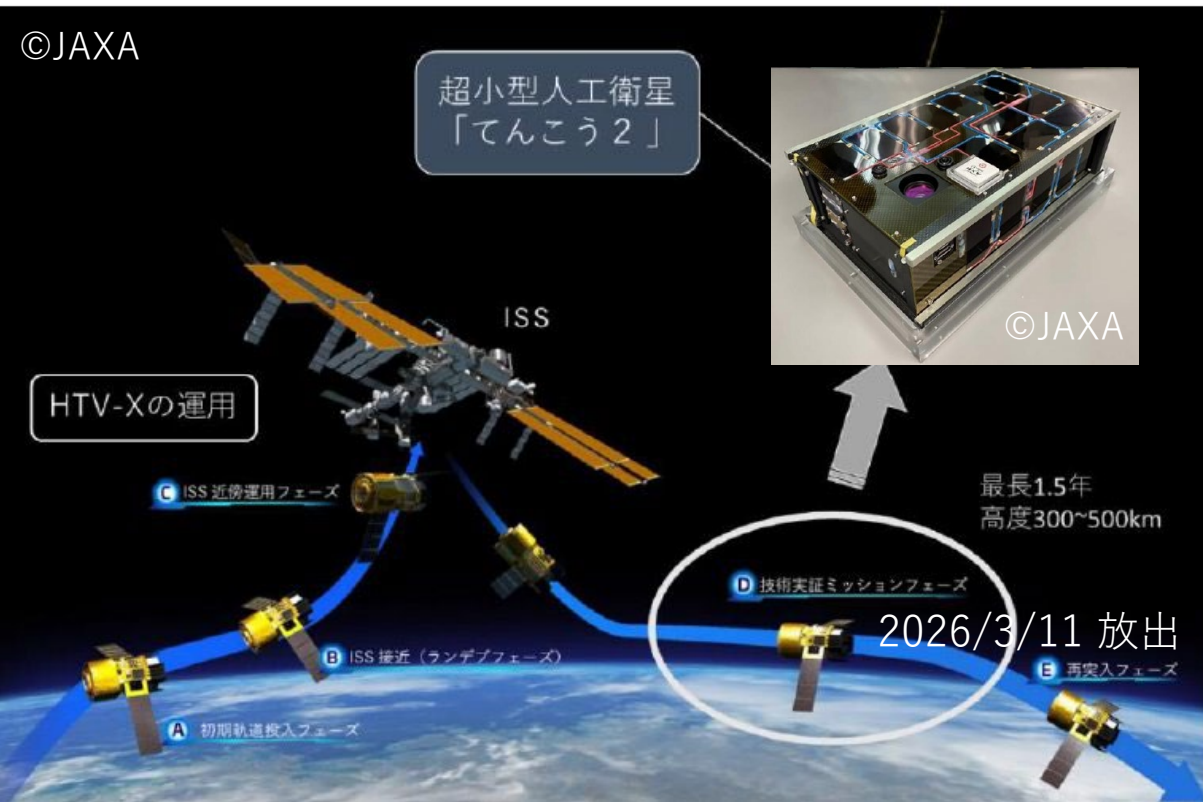
TOKIO MARINE
NICHIDO



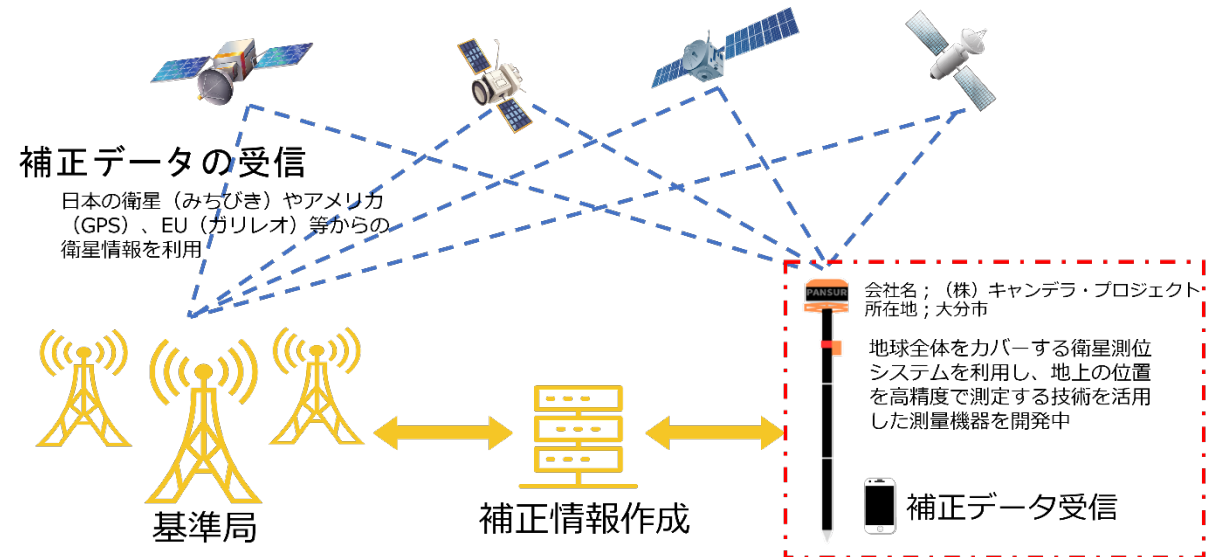
© 三菱UFJ銀行 © Sierra Space Corporation

宇宙関連ビジネスの振興について

- ✓ 日本大学が取り組む衛星プロジェクトに、大分県内の中小企業が電子回路基板や衛星の外部構造を製造



- ✓ 県内企業による衛星測位システム「GNSS」測量機器の開発及び遠隔サポートサービスの提供



宇宙産業を担う次世代の育成について：各層に向けたアプローチ

高校生以上

将来の進路（就学・就職先）として意識してもらう

- ・宇宙・科学技術分野の先駆者から直接学ぶ
- ・「この道に進んでいい」自己肯定感の獲得
- ・宇宙や科学の学習者に向けたコアなアプローチ（県立国東高校SPACEコース）

▼県立国東高校SPACEコース



▼宇宙教育プログラムBootcamp



中学生

将来の選択肢として意識してもらう

- ・「〇〇×宇宙」の可能性を知ってもらう機会
- ・宇宙以外でも役立つ：ミッション・ベースド・ラーニング
- ・宇宙・科学が好きな生徒に向けたアプローチ

中高生によるアイデアコンテスト



▼宇宙教室CanSat



立命館大学 中須賀教授と連携して実施

小学生以下

宇宙・科学技術分野への興味・関心を高める

- ・短時間での成功体験（体・手を動かす、参加型）
- ・IP（宇宙テーマのキャラクター）とのコラボ
- ・保護者層（30代～40代）へのアプローチ

▲▼宇宙×教育イベント Oita Space Hike／ワークショップ



小学生を対象に体験型ワークショップを実施



日本航空宇宙学会との連携

大分空港の宇宙港としての活用に向けた今後の課題・要望

① 大分空港を水平型宇宙港とするための基盤整備

- ✓ 海外の宇宙輸送技術の活用を含む多様な宇宙輸送サービスの実現を通じ、大分空港がアジア・中東における宇宙輸送のハブとなるためには、宇宙機の水平離着陸拠点（水平型宇宙港）としての環境整備が必要。
 - 大分空港（国管理空港）において、宇宙往還機の帰還等の宇宙活動を実現するためには、既存の航空運送事業等と調和した形での施設整備等や往還型宇宙港技術が必要。

② 大分空港を活用した民間企業による宇宙ビジネスを後押しするための制度環境整備

- ✓ 今回の宇宙活動法の改正では、「再突入に関する事項については更なる論点整理が必要」と整理
 - 大分空港において、既存の航空運送事業等と調和した形で、宇宙活動を実現するための制度環境の整備が必要。
（例）宇宙活動法、航空法、空港法、高圧ガス保安法、火薬類取締法、外為法 等

③ 宇宙港を核としたエコシステムの形成

- ✓ 宇宙港を核として価値創造や地方創生につながるエコシステムを形成するには、その周辺で宇宙関連ビジネスや研究・教育等の機能が相乗効果を発揮しつつ、集積・発展していくことが重要。
大分県の実施：県内の宇宙関連ビジネスの振興、宇宙関連企業の誘致及び地場産業の参入によるイノベーションの促進、将来の航空・宇宙産業の基盤となる人材育成
今後期待すること：試験場や射場（スペースポート含む）など、県域を超える広域連携の強化

